

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄住民の権利拡大（自治権拡大問題）(2)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43441

床
敷
眞
バン
子
花
官
補
分
誤

極秘

主管課長へ

本電主管、配付先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡ごう

電信写

(配布先〇印)

- 大政事外官
- 務務房
- 次官
- 官審長
- 臣官
- 人。文。營
- 會。電。厚
- 参。調
- 國。資。長
- 東。西
- 長。中。西
- 米。北。南
- 参。英。東
- 長。西。東
- 近。ア
- 次。統。商。欧。ラ
- 参。調。通。ス
- 米。近
- 長。二。カ
- 参。技。陪。業
- 協。助。陪。調
- 長。経。陪。調
- 参。協。規
- 長。規
- 参。経。科
- 長。政。社。専
- 参。内。中
- 長。道。外
- 文。文
- 参。振。旅
- 長。総。旅

T A 25900 米北
 年 月 日 時 発
 6 4 09 01 2000
 年 月 日 時 着
 6 4 09 02 09.35

外務大臣殿

ワシントン 武内 大使
 総領事
 領事

件名 オキナワ問題に関するトコナミ議員のパンデイ国務次官補との会談

第2279号 暗

電第1539号に關し

当地来訪中のトコナミ議員は、日パンデイ国務次官補を
 往訪、会談/時間にわたつたがその要旨次の通り(カナザ
 ワ同席、通訳ウイックル

/。トコナミ議員より日本側としてはオキナワの軍事基地
 としての重要性はじゆう分認識しており、それ故にこそ右
 が米軍事基地としての機能を引続き果して行くためには島
 民の自治権拡大の要求を除々に実現して民心を安定させ米
 軍へ協力させる気持を育てて行くことが必要である。左
 よく分子は1970年の安保条約延長の時機を目標として

政府反対、日米離間の空気を感ずる上、日本政府は、

添付なし

甲 添付なし

極秘

主管課長へ

本電主管、配付先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡ごう

電信写

ナワ問題はそのため一つの大きな攻撃目標である。従つ
 てかかる左よ分子の動きを未然に防ぐためには究極的に
 は施政権の返かんとし自治権の拡大を如何に進めて
 行くかについて日米間に話し合いを始めるべき時機がきたと
 思ふ旨述べた。

2。パンデイ次官補はそつ直な意見の開ちんを感謝すると
 前置し。米国のオキナワ政策は、さく年のケネディ声明を
 基盤としていることは現在も変わつていず同声明は

- イ) オキナワの日本への究極的返かんの確認
- ロ) 島民自治の拡大
- ハ) 島民ふくし向上の3点を要点としており、(ロ) (イ)の2点についてはキヤラウエイ前参事官は大いに努力しており右に対する批判は当たらないこと。国務省としては対オキナワ援助額が希望額に達していないことは認めるが議会が受たくすると思われる最高額は獲得しており、右獲得のためにはキヤラウエイは極めて有能であつたこと。またワトソン新参事官の選任に当つては細心の注意が払われ、赴任に当つて東京に立寄つたことも今後の在京米大使館を通じての日本政府との連絡の密接化を示さずるものであることを述べたのち

イ)については現在のアジアの状況からみて日本に施政権を返かんとする程軍事的要請がかん和する状況は予見しえ

外務省

極秘

主管課長へ

本電主管、配付先等に関し御意見あ
れば直ちに電信課検閲班に連絡ごう

電信写

す。従つて施政権の返かんを目的として日米間の話合を行
なうことは時期しよう早であると述べた。

る。右に対しトコナキ議員より自分の示した話合は施
政権返かんのデットラインを決める目的ではなく、軍事基
地として円かつなる機能を営ましめるため自治権を除々に
拡大し島民と米軍が協力し、ひいては日米関係にオキナワ
問題が障害とならないよう日米間に話合いを行なうことと
ある旨述べ、バ次官補は右研究を約した。

(丁)

5 39. 9. 4

字
秘

640904 送

外務大臣殿

米 タケウチ 大 使

件名 おきなわ問題に関するトコナミ議員の米国議員等との会談要旨(報告)

政第552/号 秘

トコナミ議員が9月/日の午前にバンダイ国務次官補と会談したことについては、さきに往電をもつて御報告済みのところ、その後同議員は/日の午後にサブロッキ下院外交委員会極東・太平洋問題小委員長、2日の午前にプライス・パスマン各下院議員、同日の午後にイノウエ、フオン各上院議員及びヘメデインガー当館顧問を護衛し、それぞれ個別に会談を行なった。サブロッキ小委員長訪問は一行全体の議会訪問の一かんとし行なわれ、ぎれいなものであつたが、その他はオキナワ問題のみにつき、トコナミ議員の単独会見であつた。プライス等との会見の要点は、トコナミ議員に随行したヤブの報告によれば下記の通りであ

39. 9. -9

記

◆プライス下院議員との会見

トコナミ議員が開示した意見は、前述往電の/と概ね同様であつたが、同議員は特に(1)ケネディ声明を引用しつつ、最終的返かんに再確認せしめんとし、(2)施政権返かん問題と米軍のおきなわ基地維持の問題とを切り離して考えるべきことを強調し、(3)即時返かんに要求する意思なきことを明言しつつも、自治権を拡大するため段階的準備を日米協力して開始することを提案し、(4)おきなわ住民の生活は統計的には非常に改善されたように見えるが、その実、ドル・ベースの生活、社会保障、就中、医りよう、休険の不備等により、日本の水準より未だ大分おとる。日本なみの水準まで引き上げたい。日本の対おきなわ援助増額のためにも、米国側の援助増大を切望するものであり、一層の御努力を期待する旨述べた。これに対し、プライスは(1)最終目標が施政権の返かんに在ること、ないし日本に潜在主権が存することは、じゅう分承知しているが、返かんの時期がいつになるかは全く不明である。(2)両問題を分離して考えるべしとの御意見はきょう味がある。(3)段階的準備案は結構であり、後日御意見(トコナミ議員が予め、米国の各方面に約100部送付しておいた提案。その日本語原文/部別添/)に対し回答すべし。今後も連絡及び意見交換を行なうべし。(4)自分は対おきなわ援助増大方にじん力して来ている。上院の方で削減

されて遣かんであるが今後共努力する旨回答した。(なお、会議中、プライスは「返かん」の意味に recession なる語を使用していた。)

2、トコナミ下院議員との会見

トコナミ議員が意見開ちした諸点はプライスとの会談におけると同様であつたが、パスマンは最終的には施政権が日本へ返かんされるべきことを認めたのみで、(1) 自分には政策問題をうんぬんする権限がない。援助額の査定が自らの任務であるとしてトコナミ議員の提案に対する直接的回答を避けた。しかし、(2) 自分は米国の対おきなわ援助はじゅう分であると思つている。おきなわで自分が会つた人達(おきなわ住民)は米国の援助に感謝しており、必ずしも日本復帰を希望していないように見受けられた。現在の生活水準に満足しないというのは進歩ある国民の特長である、と述べ、また、(3) 自分はかねてらい病に関心を有し、おきなわでも施りょう院を訪問して回つたが、おきなわ民政府は自分の視察を公表せず、かくそうとしていたように見受けられた。らい病が恐れるに足りぬ病氣であることをキャンペーンしてほしい。おきなわのらい病対策のためならば援助をおしまぬつもりである、と語つた。

3、イノウエ上院議員との会見

イノウエも前述トコナミ議員提案を受領済みであり、トコナミ議員は一般説明を省き、専らイノウエの質問に答える立場に立つた。右質問中、おきなわ住民の何%が日本復帰を希望しているかについて、トコナミ議員は調査するまでもなく、圧倒的多数が希望している。反対者は極めて特殊な立場にある者である、と答えられたが、こと回答はイノウエに余りコンヴィンシグな印象を与えなかつたように見受けられた。イノウエは復帰問題と米軍基地維持問題の分離に理解を示し、トコナミ議員に協力方を約した。

4、フオン上院議員との会見

フオンは、会見以前すでにトコナミ提案を読了しており、ケネディ宣言の精神に沿つておきなわの自治権がぜん次拡大されるべきことを自から進んで述べた程であつたが、会見時間がきん少であつたため、意見交換は行なわれ得なかつた。

5、ヘメディングーとの会見(ホテルにおいて)

ヘメディングーに対しては、トコナミ議員は相当具体的な話をされ、「米国が施政権のぜん進的返かんに同意するのであれば、日米安保条約と別におきなわのみに関する協定を結び、おきなわに関する限りは核兵器の導入を認めると

ることとしてもよい。軍事基地及びそれと密接な関連を有する産業に関するコントロールは現在のままで差支えない。この考えは日本政府の公式見解とはなっていないが、自民党はこの線で固まっている。」とまで言われたが、ヘメディングは、「ワトソンの方がキャラウェイより良いかどうか疑問である。大体米軍は完全統治を固執して一歩も譲ろうとしない。議会筋も概ね軍に同調している。国務省には貴議員の提案を理解する者がいるであろうが、一般世論は常に強こう派に与する。世論をリードしうる人（新聞の論説委員、フオリン・アフエアーズ・クォーターリーの寄稿者、大学教授等）を見出して、彼等の考え方をその方向に向けることがまず必要と思う。直接一般世論に訴えることは未だ危険であろう」との意見を述べ、同人が最近国防省筋から入手したおきなわ問題に関する陸軍省の議会あてレポートの写（別添2、議会未だ審議中の由にて未公表）をトコナミ議員に手交した。

付属物空便（行）